

令和3年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

令和3年6月

目指す学校像	英語のシャワーでグローバルなトップエリートを育てる。 (様々な体験学習を通して、バランスのとれた人格形成を目指す。)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」の3つの特質を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標			年度評価		意見・要望など		
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価		次年度への課題	
1	こころを育てる	人間性あふれる心豊かな子どもも育てる	<p>学校生活の中での、「あいさつ」を習慣化させる。登下校、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的に挨拶することを心掛ける。</p> <p>優しい心と感謝の気持ちを育む。特に行事や体験・縦割り活動・ペア活動・通学班活動などを推進し、異学年間の交流を通して、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。</p> <p>児童朝会などを通して、校訓である「誠実」「信頼」「奉仕」を実践した児童、生活目標を達成した児童、また学外コンクールなどに積極的に取り組んだ児童を表彰する機会を設ける。</p>	<p>授業の開始、終了時には満足のいく挨拶ができていた。保護者や来客に対しても気持ちの良い挨拶ができる児童が増えた。</p> <p>コロナ禍における制限などもあり、縦割り活動が十分であったとはいえないが、委員会、クラブ、CA活動、および実施できた学校行事等への感謝の気持ちが見られた。</p> <p>多くの児童が積極的に学外コンクールに参加するとともに、受賞者が学年集会で表彰される姿を全校で称賛する雰囲気が見られた。</p>	A	<p>登下校時、授業開始・終了時、しっかりと挨拶できる児童が増えている。自ら進んで気持ちの良い挨拶ができる児童をさらに増やしたい。</p> <p>可能な限り縦割り活動(登下校・清掃・休み時間)を再開するとともに、道徳教育や行事を通じて、思いやりや感謝の気持ちを育めるよう工夫する。</p> <p>登下校中のマナー、特にバス・電車内等での公共マナー教育について警備・引率の教職員と協力し、一般の方への気遣いができるよう指導したい。</p>	<p>休校期間中、オンラインでのホームルームなどを通じて児童たちは学校へ登校できない気持ちを共有し合うとともに、あらためて仲間と過ごす喜びを再認識している様子であった。学校再開後、子どもたちは落ち着いて学校生活を送るとともに学校生活を支える教職員、保護者などに感謝する姿勢が数多く見られた。</p> <p>一方で、一部の児童について登下校時にマナーが守れないことも見受けられた。駅指導、ホームルーム指導、また保護者との協力体制や学校内外のルールの徹底が必要とされている。</p>
		文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	<p>本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかりやすい広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、毎年行っている高校理数科の生徒によるプログラミング講座が見送られた。一方で、HRでの活動や毎週行われる校長講話などを通じて、学校生活において必要な文理校生としての誇りを伝えており、自覚をもって行動できる児童が増えた。</p>	B	<p>中学・高校のプログラミング講座を一昨年度同様実施し、先輩の姿を将来の自分と重ね合わせることで、将来の自分を見つける機会としたい。また、校長講話、文理高校卒業生の方からの講演会も継続し、現在、そしてこれからの自分を考えるよい機会としていきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大で大変な状況下ではあったが、多くの学校行事が保護者や地域の方々との協力で成り立っていることに感謝している。教職員だけでなく地域の方々もサポートしてくれることが児童にとってもよい学びにつながっている。今後、高校生や社会人との交流活動が再開することを期待する。</p>
2	知性を育てる	学ぶことの喜びを体感させ自ら学び考える習慣を身につけさせる	<p>学ぶことの楽しさを実感すると共に、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に足りる十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション能力も身に付ける。</p> <p>学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。チームティーチングの実施や不得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。</p> <p>教師間の授業見学等を実施し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。</p>	<p>体験学習を通して学ぶことの楽しさを伝えてきた。英語検定、漢字検定を実施するとともに、学年を超えた英語・算数オリンピック等の実施、また休校により失った授業時数を夏季、冬季、春季開校で補うことで、ほぼ例年と同数の時間数を確保した。</p> <p>算数においては、チームティーチング、習熟度学習を実施し、効果を上げた。不得意科目をもつ児童においては放課後の補習などを通して改善を図ってきた。</p> <p>研究授業を実施することで、指導力を向上させるきっかけを作った。また、研究授業後には教員研修を行い、指導力向上に努めた。</p>	A	<p>知性を育てることの実践に向けて、豊かな学力の構築、思考力・判断力・実行力の涵養、プレゼンテーション能力の育成、リーダーシップ教育の実践を中心に図っていききたい。</p> <p>また、現在実施している希望者英検ゼミに関しては内容について見直しを図るとともに、2級・準2級のような上級レベル受験希望者に向けての個別対応を検討する。</p> <p>教師の授業力の向上に向け、研究授業に加えて、教科内で児童にとって興味関心を引き出す指導について検討するとともに、ICTを活用した授業実践について研究を重ねたい。</p>	<p>体験学習を豊富に取り入れていることから、学習へのきっかけ作りができていようと思える。この体験学習での興味関心が将来の進路を左右することが予想されるので、コロナ禍にも関わらず実施方法の工夫により多くの経験をさせてもらえる環境にあることに満足を感じている。</p> <p>学力差のある児童に対しての取り組みについて、放課後の補習の充実を図るなど、きめの細かい指導について改善がなされてきているが、上位層・下位層へのケアなど引き続きより一層の充実を期待する。</p> <p>また、将来、中学、高校に進学した際に、十分に対応できる思考力、プレゼンテーション能力を身に付けさせて欲しい。</p>
		小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	<p>中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。</p> <p>2020年度からの新学習指導要領の全面実施を踏まえ、本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を図る。</p>	<p>高学年児童保護者を対象とした中学・高校説明会などを開催した。教科指導において、小学校独自の新シラバスは完成をしているが、今後中高との細かい部分でのさらなる協議を重ねる必要がある。</p> <p>「外国語教育」や「プログラミング教育」などすでに導入している内容も多岐にわたるが、最先端の教育を児童に提供できるよう今後も教育の充実を努める。</p>	A	<p>12年間の一貫教育をより充実させるために小中高において、教科・分掌レベルで情報共有および協議を重ねる必要がある。</p> <p>新学習指導要領の全面実施においては必要がある部分については見直しを図るとともに、昨年度より導入した評価基準・評価方法について教科および担当者間でよく協議を行い、必要があれば見直しも行う。</p>	<p>小中高12年間の教育の流れを踏まえ、小学校から中学・高校へ入学した際に今まで以上のアドバンテージが持てることを期待したい。</p> <p>特に、本校が推進する英語教育とSTEM教育については期待が大きく、さらなる改善を期待している。演習や放課後の補習などを充実させることで今まで以上に児童たちの学力を伸ばして欲しい。</p>
		真の国際人になるための基本的な能力と価値体系を養成する	<p>英語の授業や音楽・図工・体育の授業の中での英語(文理イメージ授業)の充実、日常生活の中での英語のシャワー、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。</p> <p>海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。</p> <p>日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食のマナー体験、茶道研修、書き初め競書、おもちゃ大会、百人一首大会、短歌作り、論語検定、田植え、稲刈り、神社奉納等々)の充実を図る。</p>	<p>英語の授業も、文理イメージ授業(英語による音楽・図工・体育)も歴史を重ね、大きな成果をあげてきた。英語を通して積極的に交流、意見交換しようとする児童が多い。</p> <p>世界的なコロナウイルスの流行により、海外での研修を行うことができなかったが、日本文化や学校紹介の動画を英語で作成するとともに、長崎研修において平和教育を実践した。</p> <p>学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、全児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童に伝えた。</p>	A	<p>外国人英語講師と接する機会は多く、リスニングおよびスピーキング力が高い児童が多い。低学年からバランスの取れた4技能育成を意識するとともに、引き続き英検対策講座などの充実、また英語を特に得意とする児童および少数ではあるが苦手とする児童への対応に取り組みたい。</p> <p>高学年での海外語学研修において、同世代の外国人児童たちと交流をする機会をさらに充実させられるようプログラムの見直しを図る。</p> <p>和食作法教室、百人一首大会、論語講座、農業体験などを通じて、伝統的日本文化の理解と習得を図る。</p>	<p>イギリス短期留学やアメリカ研修を実施することはできなかったが、長崎研修を実施することができたことは児童たちにとって大きな思い出になるとともに、戦争の歴史から国際平和について考える大切な経験となった。</p> <p>日頃より多くの外国人講師とのコミュニケーションが日常生活の中にあり、英語教育の充実を感じる。また、将来、世界で活躍することを踏まえると、日本の伝統文化やマナーを学ぶことの意義も大きい。</p> <p>英語検定試験に対して、多くの児童が前向きに挑戦し、卒業までに3級を取得している。一方で、上位層・下位層への支援をさらに充実し、実り多い英語教育を期待する。</p>